

学校の教育目標

よく考え

・よく考える子

励まし合って

・励まし合う子

やりぬく子

・やりぬく子

本校児童の実態

- ・タブレット端末を使って自分の考えを相手に伝えるなど、ICT 機器の使用に慣れてきた。
- ・交流活動では、相手の考えを受け、考えを変容させたり、新たに構築したりする双方向のやり取りが見られるようになったが、まだ広がりには十分ではない。
- ・教師の指示に従ったり定められた活動に仲間と協力して活動したりすることはできるが、自ら学びを深めようとする意欲は高くない。

研究主題

対話を通して、
学びの深まりを実感する児童の育成
～ I C T 機器を活用した授業実践を通して～

めざす児童像

◎学びを深めるため、自ら対話し、考え作りを進めることができる児童

〈第 4 次岐阜県教育振興基本計画〉

「ふるさと岐阜」ではぐくんだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人

「自立力」「共生力」「創造力」

- ①「豊かな人間像」の育成
- ②「未来を創る確かな学力と実践力」の育成
- ③「健やかな体」の育成
- ④「学びの多様なニーズに応える環境」の充実

〈輪之内町小・中学校教育指導の方針〉

- ・自ら考え、自ら決め、主体的に行動し、振り返り、結果に責任をもつ力の育成
- ・話し合って、納得解を見付け、新たな価値を創造する力の育成
- ・学んだことを生かして、社会に貢献する力の育成

研究仮説

「話したくなる」「聴きたくなる」「知りたくなる」ような対話が生まれる場を設け、ICT 機器を効果的に利用すれば、児童は学びの深まりを実感できるだろう。

研究内容

1 対話活動を充実させるための指導の工夫

- (1) コーディネートの工夫 (場の設定)
 - ・動機付け (課題意識), 発問, 方法 (交流形態)
- (2) 評価の在り方

2 対話活動を支えるための I C T 機器効果的に利用する学習活動

- (1) 考えを伝え合うための活用方法
- (2) 考えを深めたりまとめたりするための工夫

＜研究の共有化・活性化＞

授業作りの研究会の充実

主張点を明確にした授業

児童の実態把握と変容

実践に関わる検証

＜研究の PDAC サイクルの確立＞

計画

改善

実践

実態分析評価

基盤となる活動

- ◎ 学習のルールの徹底 (ハンドサイン・声のものさし・ノート作り)
- ◎ 「聴く・話す・書く」指導の徹底 (日常の授業の実践, 音読, 話し合い活動, 朝の会・帰りの会)
- ◎ 表現力を高める対話活動 (朝の活動スキルアップタイム)
- ◎ 基礎学力の向上 (計算・漢字の学習) と検定の実施による学力定着の見届け
- ◎ 家庭学習の習慣化 (家庭学習の手引き, 家庭学習パワーアップ週間)
- ◎ 授業や家庭学習でのタブレット端末のスキルの向上と積極的な活用